

トップインタビュー  
Top Interview セントラルメディカル株式会社 代表取締役  
**小泉 泰之氏**

新春講演会 富士通株式会社 理事 首席エバンジェリスト 中山五輪男氏  
**不確実な時代の到来に向けて  
地域企業が取り組むべきデジタル戦略**

調査 地方におけるジョブ型雇用の可能性 第3回

チャレンジ フルタニランバー株式会社

企業紹介 若鶴酒造株式会社

【九谷焼】花器「華小紋」



- 02 却来華の軌跡 AI時代からの考察：  
「18世紀の英国で産業革命が起きた訳とは」 [第14回] 浅林 孝志  
理事長

- 06 トップインタビュー  
Top Interview 医療へ、人へ、社会へ、環境へ、  
地域とともに躍進する企業を目指す  
セントラルメディカル株式会社 代表取締役 小泉 泰之氏  
聞き手 浅林 孝志  
理事長

- 12 新春講演会 富士通株式会社 理事 首席エバンジェリスト なかやま いわお 中山 五輪男氏  
不確実な時代の到来に向けて  
地域企業が取り組むべき  
デジタル戦略


- 20 調査 地方におけるジョブ型雇用の可能性  
第3回 自社の目的・考え方が明確であればジョブ型導入を 米屋 信弘  
調査研究部 主任研究員


- 30 海外便り しんようばん か 「瀋陽万科中日産業園」の開発からみえる日中関係 田村 昌邦  
北陸銀行 大連駐在員事務所 所長


- 32 チャレンジ “安心・安全・健康・エコ”をキーワードに  
100年企業をスタイリッシュにイノベーション  
フルタニランバー株式会社 丸澤 千春  
地域開発調査部 主任研究員

- 34 企業紹介 富山から世界に通用するウイスキー造りを目指す老舗酒造の挑戦  
若鶴酒造株式会社 吉田 聡子  
地域開発調査部 研究員

- 36 industry and university joint inquiry project 127  
産学連携  耕作放棄地を活用したヒツジの放牧肥育技術の開発 浅野 桂吾  
石川県立大学 生物資源環境学部  
生産科学科 助教

- 38 東京宅配便  
express home delivery  松山英樹プロの快挙を祝す 末次 清毅  
元客員研究員

- 39  景気ウォッチャー調査 北陸地域の概要 (2021年4月調査)

- 44  経済指標 ○国内主要指標・生産活動 ○建設投資・公共工事 ○乗用車・大型小売店 ○物価・家計消費支出・雇用 ○通関・財政・金融・その他

“安心・安全・健康・エコ”をキーワードに  
100年企業をスタイリッシュにイノベーション

# フルタニランバー株式会社

地域開発調査部 主任研究員 丸澤 千春

## 概要

所在地 石川県金沢市湊1-86  
 代表者 代表取締役社長 古谷 隆明  
 設立 1952(昭和27)年8月(創業1904(明治37)年)  
 資本金 7000万円  
 従業員数 28名  
 事業内容 木材製品輸入卸・販売、木材加工販売  
 URL <http://furu-tani.co.jp>



## 祖業は船大工

フルタニランバー株式会社は、明治37年創業。県内でも老舗の木材加工・販売商社だ。

同社の主力は住宅用内装材、商業施設・店舗向け木材・造作材で、世界中から輸入した多樹目・多用途の木材を自社で検品から乾燥、特殊加工まで施し、無垢板材、積層材、フローリング、合板、天板などに製品化して大量に在庫。北陸3県を中心に地場のハウズビルダーや家具・内装業者などの顧客相手にワンストップで提供できるのが強みだ。

そんな100年企業に、就任3年目の古谷隆明社長をお訪ねした。

## まずは社風改革に着手

本社は金沢港近くの木材工業団地の一角。7000坪の広大な敷地内に多くの倉庫が建ち並ぶ。

お訪ねした古谷社長は、まだ30代の若手経営者。大卒後、中同材を専門に扱う木材商社に就職。その後、音楽関係のプロモーション会社を経て2010年に入社。2019年3月に社長就任し舵取りを任されたばかりだが、100年企業に新たな付加価値を創造すべく挑戦中である。

入社当時はリーマンショックの直後で、社内の活気も少し乏しいように感じたそう。経営への関与を深める中で、まずは働き方改革に着手。業績連動型の決算賞与システムの導入や人事評価体系を見直し、実績に応じてしっかり処遇することで社員の「やる気を引き出す」仕組み作りに腐心したとのこと。

営業面では非建築の分野にも進出。「木」という木材の生み出す付加価値に着目し、デザインアイテムに強い金沢市の事業者とコラボ。これまでにないスタイリッシュでデザイン性の高い木工アイテムを共同で送り出した。

一方で、シックハウス対策に効果のある壁塗材（きららシリーズ）など、木材以外の周辺商材の取り扱いも開始。商材である「木」を、「安心・安全・健康・エコ」なイメージで売っていこうと、社員の意識改革を進めた。

こうして社風が少しずつ変化し、社員の満足度も高まり雰囲気も明るくなっていったという。

## IoTの導入で在庫・出荷体制を刷新

一方で、社内の各種事務や作業工程についても効率化に着手。近年、注文の小ロット化が進む中で、アイテムが多く事務負担が悩みの種だった商品在庫管理業務にIoT技術を本格導入。膨大な種類の製品に電子タグ(RFID)を貼付して商品管理システムに登録。自動ラック倉庫と連動することで大量の製品在庫の中からスピーディに、安全に品出しできる体制を整えた。

このシステム導入により、従来は2週間程度かかった商品棚卸業務も半日で済むようになった。



RFIDで出荷リードタイムを極小化した自動ラック倉庫

## 業界初の発注アプリで出荷リードタイム短縮

さらに「ものづくり補助金」を活用して、この商品管理システムと連動した発注用のスマホアプリも開発し、取引先向けに提供を開始した。

顧客は居場所を問わず、手元のスマホから在庫状況を確認して、必要な部材を即時発注できる。

受注情報は出荷担当者のタブレットに直接送信される

ため、直ちに品出し作業に取り掛かることが可能となり、出荷までのリードタイムは従来の2～3時間から10分程度と大幅に短縮。従来の電話・FAX方式に比べ納期が格段に速くなったことで、顧客の評判も上々だ。

今後、このシステムでの取扱範囲を広げるとともに、将来的には業界向けにパッケージとして外販することも視野に入れている。



スマホアプリから現場で直接受注

### ■ 工程の革新で製品化までの時間を大幅短縮

製造現場においても、これまでにない技術革新にチャレンジ。従来、原木を製材・商品化する工程で避けて通れなかった天然乾燥（天日干し）を不要とする画期的な木材乾燥システムの開発に成功した。（澤本商事、大門システムズとの共同開発）

伊豆・天城連山で採れる抗火石を利用し、ケイ素と化学反応して改質された粒子の細かい水を蒸気として吹き付け、木材内部から乾燥させることで、天然乾燥で発生する割れや反りを防ぐとともに、材質そのものの耐久性も向上。これまで製品化に最大8カ月程度掛かっていたものが、天然乾燥の工程無しで2～3週間で済むようになった。



抗火石を引き詰めた木材乾燥システム

工程が短縮されたことで、燃料費などのコストダウンだけでなく、天日干しによる虫害やカビの問題も解消、製材ロスも減った。

すでにこのシステムは大手家具メーカーへの導入も決定。今後、この技術を業界全体に広めるべく事業展開を進める予定だ。

### ■ 「能登ヒバ」を使った楽器作りにも挑戦

一方で、エンタメ業界に身を置いていたこともあり、古谷社長は大の音楽好き。自らもバンド活動を長く続けていらっしやる。

そんな趣味をきっかけに、日々扱う木材での楽器制作を発売。目を付けたのは石川の県木「能登ヒバ」だ。

地元では「アテ」と呼ばれるアスナロの変種で、平成5年から「能登ヒバ」ブランドで流通している。強度や曲げに強く防虫・抗菌性に優れた木材だ。

能登では多く植林され潤沢に供給できるため「サステ

ナブルな楽器作りにもつながる」と、石川県産業創出支援機構（ISICO）のチャレンジ支援ファンドの支援も受け本格的に事業化に着手。現在はギターやベース、ドラムのほか、ハーブ、和太鼓など各種の楽器に応用し、「音の良さ」を含め素材としての良否を検証している段階だ。

古谷社長は、「地元石川の“能登ヒバ”という素晴らしい素材をブランディングして全国に広め、新たな価値創造を目指す」と意気込む。



「能登ヒバ」ギターとハーブ

### ■ 「木の良さ」の伝道師としても活躍

古谷社長は、業界を代表する「木」のプロモーターとしての顔も持つ。

担い手不足などの課題を抱える国内の林業振興と、国産材の利用促進が国策として進められているが、業界としても「木の良さ」を広めるため、さまざまな取り組みを始めている。

そんな中、石川県木材青壮年会の会員でもある古谷社長は、バンド経験や前職の音楽プロモーターの経験を活かし、木材のPRソングを作詞作曲したり、日本木材青壮年団体連合会の「木育活動<sup>\*</sup>」全国委員長として、「木育」の効果測定や各種コンテンツ作りなどプロモーションの先頭に立つ。

### ■ 職人不足解消に向け人材育成にも着手

また、(株)辻鉄、ヤマイチ(株)、アロック・サンワ(株)と共同で新法人を立ち上げ、北陸初のリフォーム多能工の育成学校「ハウスリフォーマー育成学院」を開校（令和2年7月）するなど、人材育成や担い手不足など業界の課題解決に向けても尽力する。

木材の良さを広めるなかで、「やはり何事もアウトプットが大事。“木”をもっとスタイリッシュなものとして、一般の人にもっと身近に感じ取って欲しいし、“木質化”に興味のある方は、ぜひ当社に相談して欲しい」と思いを語る。

「木質化」というキーワードで、伝統的で古い業界に新感覚のイノベーションを起こす古谷社長。次の挑戦にも大いに注目したい。

<sup>\*</sup>木育活動：林野庁が推進する「幼児期から原体験としての木材との関わりを深め、豊かなくらしづくり、社会づくり、そして森づくりに貢献する市民の育成をめざす活動